

華頂山親鸞聖人植髮の尊像は、仏光寺の廟所の東に隣る、旧青蓮院御門跡の院内に在せしを、近年此地をひらき給ひ、堂舎を遷し、華頂山御堂と称す。宗旨は天台にして、親鸞宗義を接て正信偈文念仏和讃御文章等の勤行あり。本尊は阿弥陀仏の坐像を安置し、右の壇上の厨子に此尊影を安ず、長三尺にして立像なり、小葵の直衣に薄紅梅の御衣を召、紫の亀甲形の指貫を着し、雲縹縁の褥に在して、児童の御影なり。抑此尊像は、人皇八十代高倉院御宇承安三年に聖人誕生し給ひ、御父は大織冠鎌子大臣苗孫有範卿と申、御母は八幡太郎義家の嫡子対馬守義親の息女なり。聖人幼年より出離遁世の志願ましくければ、九歳の春青蓮院慈鎮和尚の許にて、翠の髪を薙給ひ御弟子となり、範宴少納言卿と申ける。夫より叡嶽無動寺に登り、天台止觀を明め、遂に難行を捨て易行に趣き、本願念仏の一流を弘通し給ふ。慈鎮和尚聖人の剃髪し給ふ御貌をうつしおかれ、かの翠の髪を御頭に植置せらる、是を植髮の尊影と号し、一宗の門俗渴仰日にまして繁昌の靈地とぞなりにける。